



報誌

やすらぎだより

3
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

〒632-0122

奈良県天理市福住町5504番地

Tel 0743-69-2216

Fax 0743-69-2101

Mail yasuragi@crux.ocn.ne.jp

HomePage <http://www.yasuragien.jp>

発行元 広報委員会

発行日 令和元年 3月1日

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第177号

「 自 粛 ム ー ド 」

施設長 植田 誠



さすがに今号は新型コロナウイルス関連を記さねばならぬ。日一日と情勢が変化し今後の状況を誰しもが読めない中、一日も早い収束を望むとともに正直振り回されているのも実情だ。

3月4日予定であった当法人の研究発表会（講演会）も中止となった。十年の歴史を重ね、内外に示す貴重な機会であった場も苦渋の決断にて取り止めとなったことは、至極残念であるのは言うまでもない。‘致し方ないご時勢’ではあるが、そんな中、あえて私のつまらぬこだわりを披露することとしよう。

世の中、全てが自粛モードに包まれている。そのモードに対して賛否するのではないが、「自粛」という言葉がどうもしっくりこない。以前、何かの際に調べたことがあったが、皆様はこの自粛の言葉の真の意味をご存知だろうか。

自粛とは「自分から進んで行いや態度を改めて慎むこと」という意味である。但し前文の意味にこうある「他人からの評価を気にして」と。詰まり自粛は自ら慎むのだが、世間や他人からの目を気にしながら慎むことという意味なのだ。何とも‘日本人らしい’言葉ではないか。

「人がどう思おうと自ら正しいと思う道を行く！」
と言いたいところだが、‘気にしい’の私はやはり気にはするし他者評価が大きな判断理由ともなる。

そこであえて使うなら「自重」の方が相応しいと考える。「言行を慎重にすること」という意味だが、真意は「あくまで他者を気にせず」だ。それにしても‘自重モード’とは言わない。あくまで‘自粛モード’なのだ。

ここまで読まれると一同に感じるであろう。

「自重でも自粛でも、どっちゃんでも良い！」

「それより、これ以上の蔓延防止が肝心や！」

ごもっとも、と納得しつつもどうも気になる‘自粛モード’。今後ますますメディアを賑わすであろう言葉が一つ‘強硬開催’、如何かな。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業